

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

30

第九幕 第1場

1523年2月下旬

バルセローナのパスクアル家にて

登場人物： イニゴ・デ・ロヨラ 巡礼者
ホアン・パスクアル マンレサのイニェス・パスクアルの息子
パトリシア マンレサのイニェス・パスクアルの姪
ルイーザ パトリシアの友人

ホアン・パスクアル*9： イタリア行きの船が見つかるまで、どうぞこの離れをお使いください。狭いですが静かです。

イニゴ： ありがとうございます。とても静かで落ち着きます。

ホアン： 何か御入用でしたら、管理人におっしゃってください。わたしたちはマンレサに帰ります。

イニゴ： すべて整っています。巡礼者には勿体ない部屋です。

ホアン： 天候が良くなってきましたので、イタリア行きの船も出港できるようになるでしょう。

(ノックの音)

ホアン： はい、どうぞ。

(パトリシアが友人を連れて、茶菓をもって入ってくる。)

ホアン： ああ、パトリシア、有難う。こちらは、イニゴさん。

パトリシア： 初めまして。叔母から良くお名前を伺っております。

イニゴ： 初めまして。マンレサで、叔母様には大変親切にいただきました。こちらでも船が出るまで、しばらくの間お世話になります。よろしく願います。

パトリシア：こちらこそ よろしくお願いいたします。マンレサの叔母から、イニゴ様からお祈りや神様のことをたくさんお教えいただくようにとされています。それで、友人のルイーザと一緒にお話を聞きに参りました。私たちこの近所に住んでいますので。

ホアン：今日はあまり長くならないようにね。マンレサからの旅でお疲れですから。

イニゴ：いいですよ。神様についてお話しできるのは、私の一番の喜びですから、疲れなど飛んで行ってしまいます。

ルイーザ：初めまして。今日はお顔を拝見するだけで、すぐお暇します。ところで、一人でイタリアの方においでになると聞きましたが、どなたかお連れがあった方がよくはありませんか？ マンレサで大病なされたと聞いておりますので、おひとりでは心配ですわ。そのための費用が必要だし、だれか一緒に行く人がいると助かりますよ。ローマやベネチアではイタリア語の通訳も必要でしょうし、健康面での助けも必要ではありませんか？

パトリシア：私、いい人を知っています。彼はラテン語もイタリア語も堪能だし、判断力も優れているので何かあった時頼りになるでしょう。

イニゴ：ご心配下さり有難うございます。しかし、私はただ神のみを頼りにしたいのです。私は、信、望、愛の三つの徳を得たいと望んでいます。もし自分に同伴者があったら、空腹の時にはその人に助けてもらえると思ひ、倒れれば、その人が手伝って起こしてくれると思うでしょう。そういう信頼とか、愛情とか希望とかは、ただ神に対してだけ持ちたいのです。

ホアン：イニゴさんの神に対する信頼は絶大なものですから私たちがやきもきしても始まりません。船も神様がきつと用意してくださるに違いないと信頼しておられます。

ルイーザ：ということは、無料でイタリアまで乗せてくれる船があるということですか？

イニゴ：私はそう信じています。神様が私にそれをお望みなら、必ず実現する道も備えてくださるはずですから。

ホアン：僕もマンレサでイニゴさんのお姿を見、お話をお聞きするうちに、そのように信じる事が出来るようになりました。神様と、そしてイニゴさんにお任せして、私たちは旅のご無事を祈りましょう。イニゴさん、今日はお疲れでしょう。ゆっくりお休みください。

イニゴ：有難う。あなたがたもよくお休みください。良い風が吹き始めたようです。明日港に行ってみようと思います。

《かげの声＝註》

- *9 このホアン・パスクアルは、母イニェスとともにイニゴの世話をし、たびたびイニゴの話を聞いていた。イニゴがマンレサを離れた後も聖人の指導を受け、イグナチオの列福・列聖調査の折には、マンレサ時代のイニゴについて、その聖性の証言をした。